

恵海著「異端・異能が日本を救う」大機・小機、日本経済新聞 2016年10月21日朝刊を読む

異端・異能が日本を救う

1. (1)公開中の映画「シン・ゴジラ」が大変な人気だ。
(2)もう5回見た人も周囲にいる。
(3)興味深かったのは、若き内閣官房副長官の冷静沈着ぶりだが、何と云っても、大組織では活動の場が制限される異端・異能の士が大活躍したことだ。
2. (1)彼らは旧態依然の学者的発想とは異なる思考回路とビッグデータ解析を使って、シン・ゴジラが原子力で動く新生物と特定。
(2)有効な対処策により、日本と世界を救った。
3. (1)日本銀行は9月下旬に「長短金利操作付き量的・質的金融緩和(QQE)政策」を決めた。
(2)これに対する海外中央銀行や元財務大臣などの評価が高い。
4. 「新しい枠組み」「目で見ると含めた総括的な検証」「補論・図表」など全70ページにわたる一連の公表資料は、従来の発想にとらわれない斬新な考え方を論理的・実証的に分かりやすく示した。
5. (1)レポートを読むと、日銀も多くの未経験に直面した結果、異能者を用い、それらに対処できる柔軟な戦略を立てられる組織に変化してきたようにうかがえる。
(2)以下は特に斬新な点だ。
6. (1)まず日本のインフレ期待は、短期で見ると7割が「バックワードルッキング(後追い)」で形成されると計量的に分析した。
(2)そのうえで2%の物価上昇の目標を達成するには「フォワードルッキング(先取り)」の期待形成に変える必要があると結論付け、物価が安定的に2%を超えるまでマネタリーベースの拡大を続けると明言。
(3)金融政策運営における期待の重要性を確認した。
7. (1)第2は、マイナス金利とQQEの併用で長期金利が23ベースポイント(0.23%)低下した事実に基づき、長期金利の操作が可能であることを実証。
(2)これを一段と確実にするために、「指し値オペ」を新たに導入したことだ。
8. 市場がうまく機能しなければ当局が登場するのは、現代経済学の常識である。

9. (1)第3に国債10年物の金利をゼロ近傍に維持して長短金利差を造成し、銀行の収益改善に配慮したことだ。

(2)同時に10年超の金利をプラスに維持して、年金や生損保の運用機会を確保した。

10. 今後、未曾有の事態に直面したとき、日銀には伝統的な常識論者の上に異端や異能の人材を据え、新しい的確な政策を実行する役割を期待したい。

<コメント>

日本や世界での自然災害や経済危機はいつどこで発生してもおかしくない状況だ。このような中、未曾有の事態に直面したときにどのように対処したらよいか、異端・異能の活用を論じた恵海氏の問題意識を高く評価したい。

— 2016年10月21日(金) 林 明夫記 —